

良心の問いに回答

われわれはいかなる場合でも、カネのために妥協しない。会社の原則はカネではない。

どんな品位にもとる行為や、受けがたい屈辱に更されても、拒否しなければならぬ。

われわれは誇りある一員として、魂は売らない。

われわれには使命がある。顧客をより良くするため、それを満足させるべきか。

会社は未来を予想し、創造していかねばならぬ。そのために、会社の存在理由がある。

経営者の責任を、他に転じ、「看板」を私物化する資質自体に、絶望的と言える無責任な体質が含まれているものです。

行動に、いったい人間味はどこにあるのでしょうか。

顧客にとって価値は何か。価値を創造するため、われわれは努力を重ねる。しかし、見える成果には程遠いのが状況です。まだ諦めてはいない。

経営者は約束を守り、何を行わないか、ということです。

未来は誰にも分からない。予期できないものです。

だからどんなに苦しくても実行なくして、未来は創り出せない。

十に一つの成功があれば大成功です。

思いどおりにいくと思うのは、まったく愚かものです。

回りで成功者と見えるのは、単なる一時の偶然です。それを実力と錯覚されている方が多いものです。

今想定外の、予期しない現象が多発しています。

常に「謙虚」と、「学ぶ」姿勢を失ったその時、すでに個人も社会も、見えざる衰退と、奈落に落ちていくのです。



4月25日名古屋地裁金沢支部で判決 事務所からお知らせ

3月3日と10日の土曜日は営業です
3月16日～21日まで代休日です

適度な成功

志の低い目標は、当然失敗も少ない。可も無し、不可も無しの水準に落ち着きます。

できないことを明らかにすることが失敗ではない。

徹底的に挑戦して二度とする必要がないことが解るのです。

失敗は、実行でしか生まれません。よく言われる、失敗しないことが、大失敗だといえます。

「生き金」は失敗の覚悟から生まれるのです。そして経験という資産が増えるのです。

あのノーベル賞も失敗なくしてありません。

挑戦し、失敗を重ねるだけだ。

過去の常識や価値判断はまったく通用しないと見た方が正しいものです。

すべては人間性、人間力が勝負です。

そして自分は卑しい人間か問うべきです。

